

2008年8月25日

県民の政治意識 第27回モニター調査 報告書

(2008年8月11日～21日調査)

I	調査の設計	1
II	結果の概要	2
III	今回のポイント	5



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

福田康夫首相は北海道・洞爺湖サミットを終えた8月初め、懸案だった内閣改造、自民党役員人事に踏み切った。「安心実現内閣」を標榜する新体制は、目前の年金・社会保障の再構築や格差是正の課題に取りくむと同時に、衆参両院の与野党逆転の「ねじれ状態」で陥った停滞の打開に、解散・総選挙のタイミングを計り、政権交代を視野に入れる民主党との政治決戦に臨むことになる。

とりわけ、米国のサブプライム住宅ローン問題に発する国際的な信用不安と原油、穀物の原材料高騰に引きずられた国内景気の後退局面入りの厳しい状況下で、政治のカジ取りはこれまでになく重要視される。インド洋の自衛艦給油活動を継続する対テロ新法改正をめぐる連立相手の公明党とのきしみもめだつ。

秋には発足1周年を迎える福田内閣の評価、こんごの期待について、協会モニターを対象とする第27回の定期調査で探る。

◆調査の設計

▽調査方法 当協会の登録モニターに事前に調査票を郵送し、回答は郵送、ファクス、電話聞き取り、インターネットを併用して回収。

【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に、政治意識調査を実施。その際、追跡調査に協力できるという人たち678人を対象に、選挙直後の同年7月に「参院選の投票行動」調査を行った。

これを「第1回モニター調査」と位置付け、1996年2月に男女別、年代別、選挙区別などの比率が「県下の有権者の縮図」となるように対象者を選定して第2回調査を行い、それ以降は半年間隔で年2回ずつ、定期的に続行している。この間、モニターは若干の補正を重ね、登録数は500人を維持している。

▽調査時期	2008年8月11日調査票発送～21日回収締め切り		
▽有効回収数(率)	481人(回収率96.2%=男性237人 女性244人)		
▽回収内訳	郵送	227	(47.2%)
	ファクス	131	(27.2%)
	電話聞き取り	63	(13.1%)
	インターネット	60	(12.5%)

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

II 結果の概要

内閣改造後の福田政治

内閣の評価

◆支持が下降26.8% 不支持は72.6%

改造後の福田内閣の支持率が26.8%、不支持は72.6%。今年2月の第26回調査に比べて支持が6.6ポイント下がり、不支持は逆に6.4ポイント上がり、支持・不支持の開きは32.8ポイントから45.8ポイントに拡大した。

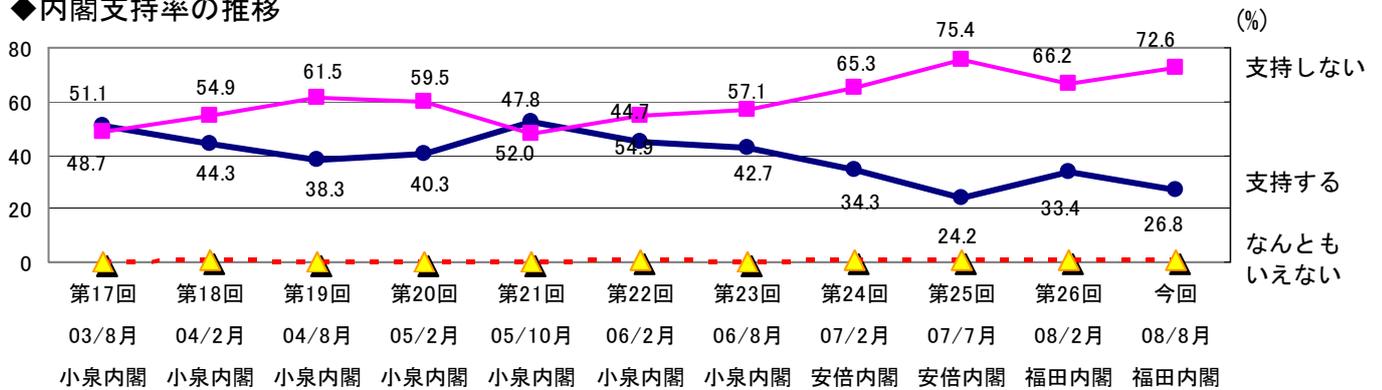
男女にほとんど違いはみられないが、高い年代層で支持が高まり、70代以上では40%を超える。

職業層で無職層、農・林・漁業、役員・管理職・自由業で高め。不支持はサラリーマン層で80%前後の高率となり、商工・自営業でも高い。

＜歴代内閣の平均支持率＞

村山内閣	37.2%	(調査回数：1回)
橋本内閣	27.2%	(6回)
小渕内閣	17.5%	(3回)
森内閣	9.6%	(2回)
小泉内閣	41.3%	(11回)
安倍内閣	29.3%	(2回)
福田内閣	30.1%	(2回)

◆内閣支持率の推移



◆無党派層 支持20%に届かず、平均値を下回る

政党支持層では、連立与党の自民党で支持が63.7%、公明党ではそれを上回り70%台に乗せる。半面、民主党は不支持が90%台に達し、支持政党なし層でも80%を突破する。

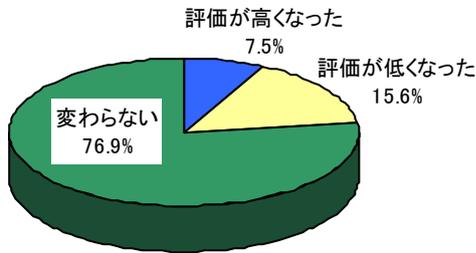
選挙区別では支持が3区を筆頭に4、5区で高く、1、2区で低めになっている。

	性別		年代			選挙区					政党支持		
	男性	女性	20代	40代	60代	1区	2区	3区	4区	5区	自民党	民主党	支持政党なし
支持	25.7%	27.9%	24.6%	22.1%	28.9%	22.1%	26.9%	29.1%	28.2%	28.9%	63.7%	8.9%	17.5%
不支持	73.8%	71.3%	73.7%	77.9%	71.1%	77.9%	73.1%	68.2%	71.8%	71.1%	36.3%	90.2%	81.4%

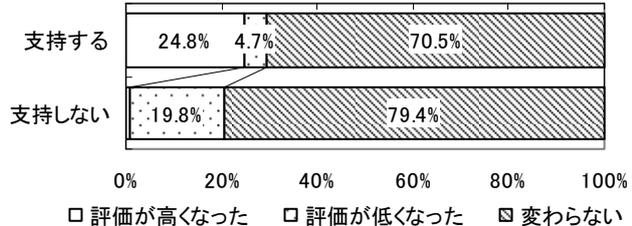
内閣改造の受けとめ

◆ 首相の評価「変わらない」77% 指導力発揮「評価する」20%

内閣改造と自民党役員人事により、福田首相の評価が「変わらない」が77%の高率を占め、「高くなった」が8%、「低くなった」は16%。内閣支持層で「高くなった」が25%、自民支持層でも20%にとどまり、最大の眼目であった“政権浮上”には結びつかなかったようだ。



◆ 内閣支持との関連では



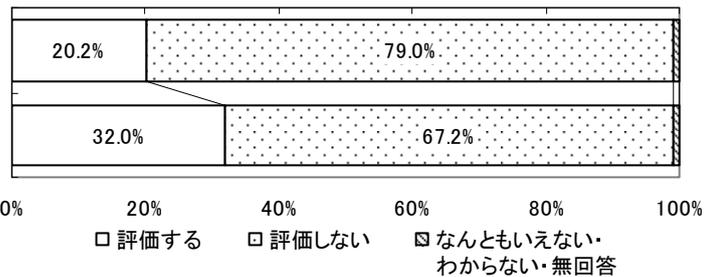
福田カラー・指導力の発揮を「評価する」が20%と低く、自民支持層でも半数に届かない。無党派層では平均値を大きく下回る。

◆ 政策実行の人材起用 70%近く否定的

新内閣の政策実行のための人材起用について「評価する」は32%だが「評価しない」がその倍以上の67%にのぼる。

高い年代層や役員・管理職・自由業、無職層で評価が比較的高くなっているが、若い年代層や勤め人層では厳しい。

A 福田カラー・指導力の発揮
B 政策実行のための人材起用



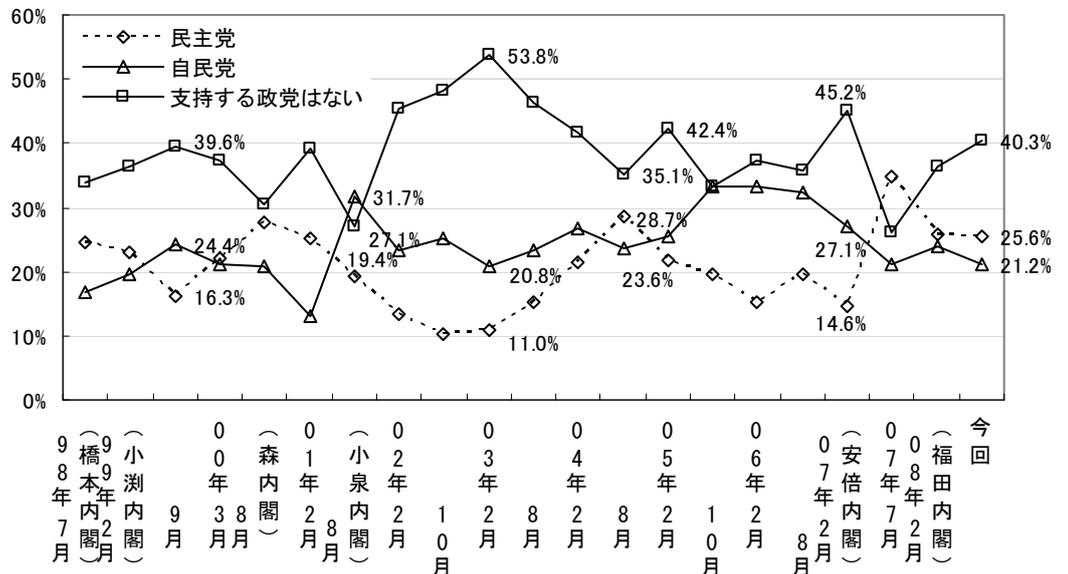
支持する政党

◆ 横ばい民主首位キープ25.6% 自民は微減21.2% 支持なし40%台に

民主党が25.6%、自民党は21.2%。半年前の前回に比べて民主党は横ばいだが、自民党がわずかながら下降したため、その差が4.4ポイントに広がった。

3位に僅差ながら公明党が上がり、共産党が4位に後退。社民党、新党日本、国民新党の順で続く。

【政党支持の推移】



	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回
	98年7月 (橋本内閣)	99年2月 (小淵内閣)	99年9月 (小淵内閣)	00年3月 (小淵内閣)	00年8月 (森内閣)	01年2月 (森内閣)	01年8月 (小泉内閣)	02年2月 (小泉内閣)	02年10月 (小泉内閣)	03年2月 (小泉内閣)	03年8月 (小泉内閣)
民主党	24.5%	23.0%	16.3%	22.2%	27.7%	25.2%	19.4%	13.3%	10.3%	11.0%	15.3%
自民党	16.7%	19.7%	24.4%	21.0%	20.8%	13.0%	31.7%	23.3%	25.2%	20.8%	23.2%
支持する政党はない	33.9%	36.5%	39.6%	37.3%	30.4%	39.2%	27.1%	45.5%	48.3%	53.8%	46.2%

第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	今回
04年2月 (小泉内閣)	04年8月 (小泉内閣)	05年2月 (小泉内閣)	05年10月 (小泉内閣)	06年2月 (小泉内閣)	06年8月 (小泉内閣)	07年2月 (安倍内閣)	07年7月 (安倍内閣)	08年2月 (福田内閣)	08年8月 (福田内閣)
21.5%	28.7%	21.9%	19.7%	15.2%	19.5%	14.6%	34.8%	25.8%	25.6%
26.7%	23.6%	25.5%	33.3%	33.4%	32.3%	27.1%	21.1%	23.9%	21.2%
41.6%	35.1%	42.4%	33.3%	37.4%	35.6%	45.2%	26.1%	36.5%	40.3%

◆男性31%－女性20% 民主の落差埋まらず

民主党は男性が31.2%と前回よりも微減だったのに対して、女性は20.1%の微増だったが、その差が10ポイント以上の“男高女低”の落差は解消されない。自民党は男性21.5%、女性20.9%と、そろって微減で、支持の男女同水準は変わらない。対照的に、支持政党なしは女性が47.5%に高まり、男性を15ポイント引き離している。

	全体	性別		年代			選挙区				
		男性	女性	20代	40代	60代	1区	2区	3区	4区	5区
民主党	25.6%	31.2%	20.1%	22.8%	18.2%	22.4%	25.7%	25.0%	28.2%	26.8%	21.7%
自民党	21.2%	21.5%	20.9%	10.5%	19.5%	23.7%	16.8%	26.9%	16.4%	25.4%	22.9%
公明党	4.4%	4.2%	4.5%	1.8%	7.8%	5.3%	7.1%	2.9%	2.7%	5.6%	3.6%
共産党	3.5%	3.4%	3.7%	1.8%	2.6%	3.9%	2.7%	2.9%	3.6%	-	8.4%
社民党	3.1%	5.1%	1.2%	1.8%	1.3%	7.9%	3.5%	4.8%	3.6%	-	2.4%
支持政党なし	40.3%	32.9%	47.5%	54.4%	50.6%	35.5%	42.5%	35.6%	44.5%	39.4%	38.6%

◆民主が20、30、50代で優位 自民は40、60、70代でリード

年代層では民主党が20、30、50代で自民党を上回る。自民党は40、60代、70歳以上（以下「70代」と略記）でわずかながら優位にある。支持政党なしは全体的に底上げされ、40代までの若い層で50%前後の高率を示す。

職業層でみると、民主党は商工・自営業、無職層で高め。自民党は農林業や管理職層で上回る。勤め人層は民主党が優位に立つ。

◆1区で民主26%－自民17%の差 3、4区でも民主優位 2、5区は自民

選挙区別では、民主党が前回の1、3区に加えて僅差ながら4区でも優位に立ち、自民党は2、5区のリードを保つ。その中で、1区で両党の差が拡大し、2区では逆に縮まる傾向がみられる。支持政党なしは3区で44.5%と最も高く、2区で35.6%と最も低い。

Ⅲ 今回のポイント

衆院選をにらむ動向

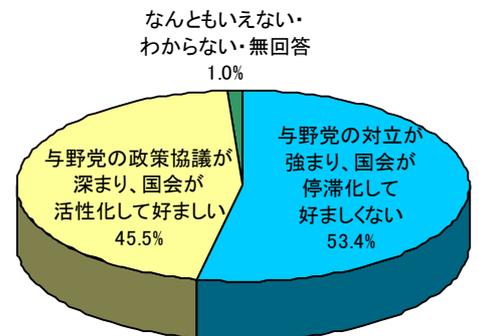
“ねじれ状態”の国会

◆「対立で停滞化」過半数 「協議で活性化」が接近46%

国会の“ねじれ状態”が及ぼす功罪について「与野党の対立が強まり、国会が停滞化して好ましくない」という否定的な受けとめが53%と僅差ながらリード。女性で否定的感度が高く60%に迫る。

「与野党の政策協議が深まり、国会が活性化して好ましい」という肯定的な受けとめは46%。男性で半数をクリアする。

「好ましい」が50～60代で半数を占めたのに対して、若い年代層と70代以上では「好ましくない」が上回り、20代で63%と最も高い。

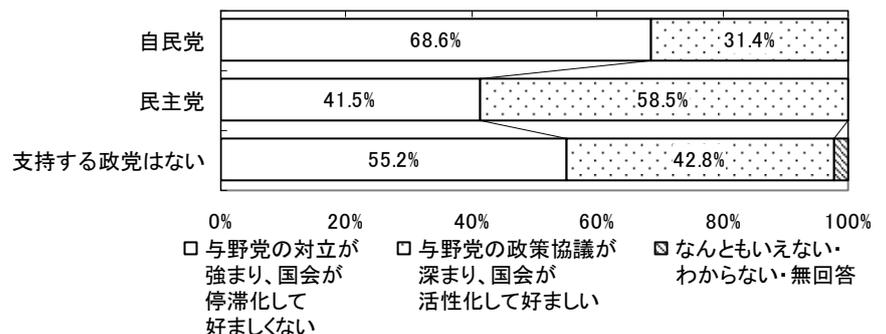


◆政党支持層

自民「好ましくない」69% 民主「好ましい」59%

自民支持層で「好ましくない」が70%に迫る勢いで、無党派層でも半数を超える。民主党では60%近くが肯定的だ。政治・政党の再編成を期待する層が「好ましい」が54%と優勢。対照的に、期待しない層では「好ましくない」が60%を超える。

◆政党支持との関連では

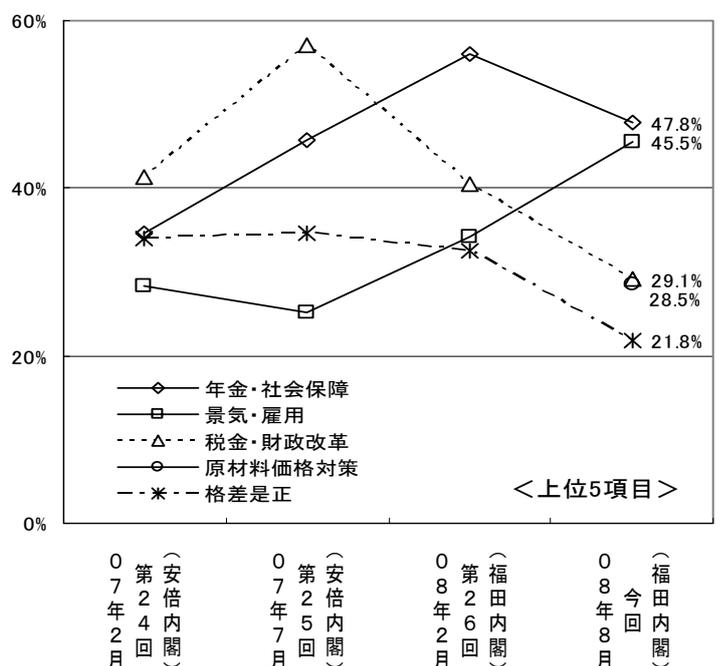


今後の重要課題

◆「年金・社会保障」トップ維持 「景気・雇用」が急接近

「年金・社会保障」が下降したものの、前回に引き続きトップにランクされ、2位は僅差で「景気・雇用」。前回3位から急伸した。3位は「税金・財政改革」。今回はじめて選択項目に加えた原油、穀物などの「原材料価格対策」がのっけから4位に挙げられ、後退局面に入った日本経済の対外環境に対する政治の期待感が強く示された。

「年金・社会保障」で男女差がほとんどみられないが、60代以上の高齢層ではかなり高くなっている。「景気・雇用」では20代を筆頭に40～50代で高く、若い年代層は「原材料」にも敏感なスタンスがみえる。



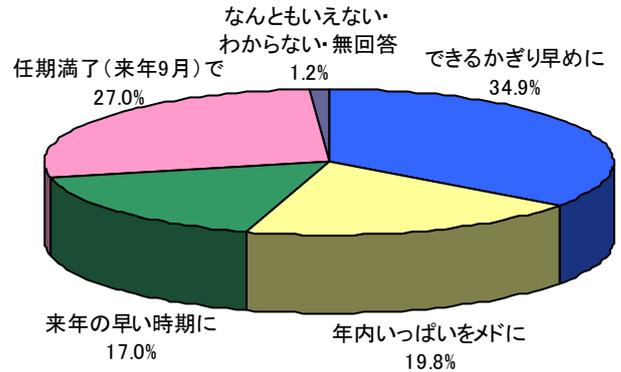
注:「年金・社会保障」は07年2月では「社会保障」として聞いた
「原材料価格対策」は今回からの新選択肢

衆院選の時期 「早め」増加35% 「年内いっぱい」20% 「任期満了」27%

「できるかぎり早めに」が35%と最も多く、選択肢に少し違いはあるが、今年2月よりも8ポイント伸びた。「任期満了」が27%と2番目だが数値に変化はみられない。

「早めに」は男性で42%の高率で、30～40代でも40%台に達する。「任期満了」は女性や50代で30%を超える。

政党支持層では、自民党で「任期満了」が半数を占める。対照的に、民主党では「早めに」が48%にのぼり「年内いっぱい」を含めると4人に3人が積極姿勢だ。公明党は「来年の早い時期」がほぼ半数にのぼり「任期満了」も30%近く。共産党は「早め」が70%を突破し、政党支持層では最も高い。



議席増の期待 「民主党を中心に野党」伸びて66%

次の衆院選では「民主党を中心に野党が伸ばしてほしい」が66%、「自民党を中心に与党が伸ばしてほしい」は31%。民主・野党の優位は変わらず、解散・総選挙に近づくほどにじりじりと高まっている。

民主・野党の伸張への期待は、男性と40代までの若い層で高く、職業層では現業・サービス系勤め人を筆頭に商工・自営業で70%を超える。自民・与党には農・林・漁業で半数近くへのぼり役員・管理職・自由業が続く。

政党支持層が各自の立場を鮮明にする中で、無党派層は民主・野党78%—自民・与党17%と、平均値よりも民主・野党寄りになっている。

